来年 復帰から50年 ここから50年のまちづくり

これからも保育料、給食費、18才までの医療費は無償でさらに充実！

子どもの貧困が大きな課題になっている沖縄県において、格差のない教育環境をつくることは急務です。待機児童を早急に解消するとともに保育士、教師の働く環境整備や、きょうだいは同じ保育園に入園できるようにするなどの改善を行っていきます。

くらし・福祉の充実

高齢者や障がいのある方々が安心して暮らせる住環境の整備、各団体の取り組みをつなげて「大きなユイマールの輪」をつくります。

また、コミュニティーバスのエリア拡大や、各地域のニーズにあった福祉の充実を図ります。

若者の未来が光るまちづくり

障がい者、弱い立場にある人を誰ひとり取り残さないまちづくり

やんばるの世界自然遺産を活かしたまちづくり

復帰っ子 ようへいと描く 私たちのまちづくり

地元企業の底力の発揮で豊かなまちづくり

高齢者が安心安全のまちづくり

市民のいのちを守る責任あるコロナ対策

新型コロナ対策支援の拡充

医療・福祉従事者をはじめ、影響を受けているあらゆる産業の事業者を支援します。
今だからこそ地元企業を活用し地域に潤いと元気を取り戻します。
若者のリアルな声を政策に反映させます。

「小さな世界都市構想」を具体化

父・岸本建男が市長2期目に打ち出した「誇りあふれる小さな世界都市名護」。
私はこの構想を具体化させたいと考えます。

「国際的な研修センター」の創設

これは日本で働く世界の若者の受け入れ窓口となる機関と施設です。日本の文化、語学をはじめ、あらゆる産業の技術を学ぶことを目的とし、各地で活躍する人材を育成します。もちろん私たち地元の市民も学べる施設です。このまちで働きながら夢を実現しましょう。

アフターコロナを見据えたまちづくり

沖縄には「イチャリバチョーデー」「ユイマール」に表されるような「寛容さ」「多様性を認め合う心」があり、名護市にはさらに名桜大学、サミットの経験という土壌があることから、世界から選ばれる施設になると考えます。

このプロジェクトは多国間の相互理解を深め世界の平和に資するものとなります。

将来はぜひみなさんと「平和の発信都市・小さな世界都市名護」を築きたいと思います。

「約束はすでに破られている」基地問題

父・岸本建男は普天間飛行場代替施設の辺野古への受け入れに際し「7つの条件」を政府へ提示。「どれか1つでも条件を満たせなければ受け入れを撤回する」という条件を政府は受け入れ閣議決定をした。しかし退任直前に政府から提示された「沿岸案」は7つの条件を満たすものではなく、「論外である」「到底、受け入れることはできない」と緊急声明を発表。それは退任を3日後に控えた2006年2月4日のことだった。その後、父・建男が亡くなってからわずか11日後の2006年4月7日、後任の島袋吉和元市長が沿岸案受け入れを表明。7つの条件は反古にされ閣議決定も廃止となった。

この問題に当初から命がけで取り組んだ岸本建男の市長としての8年間と、その約束がまるで無かったかのように、今、埋め立て工事が強行されている。私は、この辺野古新基地建設を到底認めることはできない。信義はすでに破られている。**さぁ、今こそ名護市の建て直しを！**

内部資料